

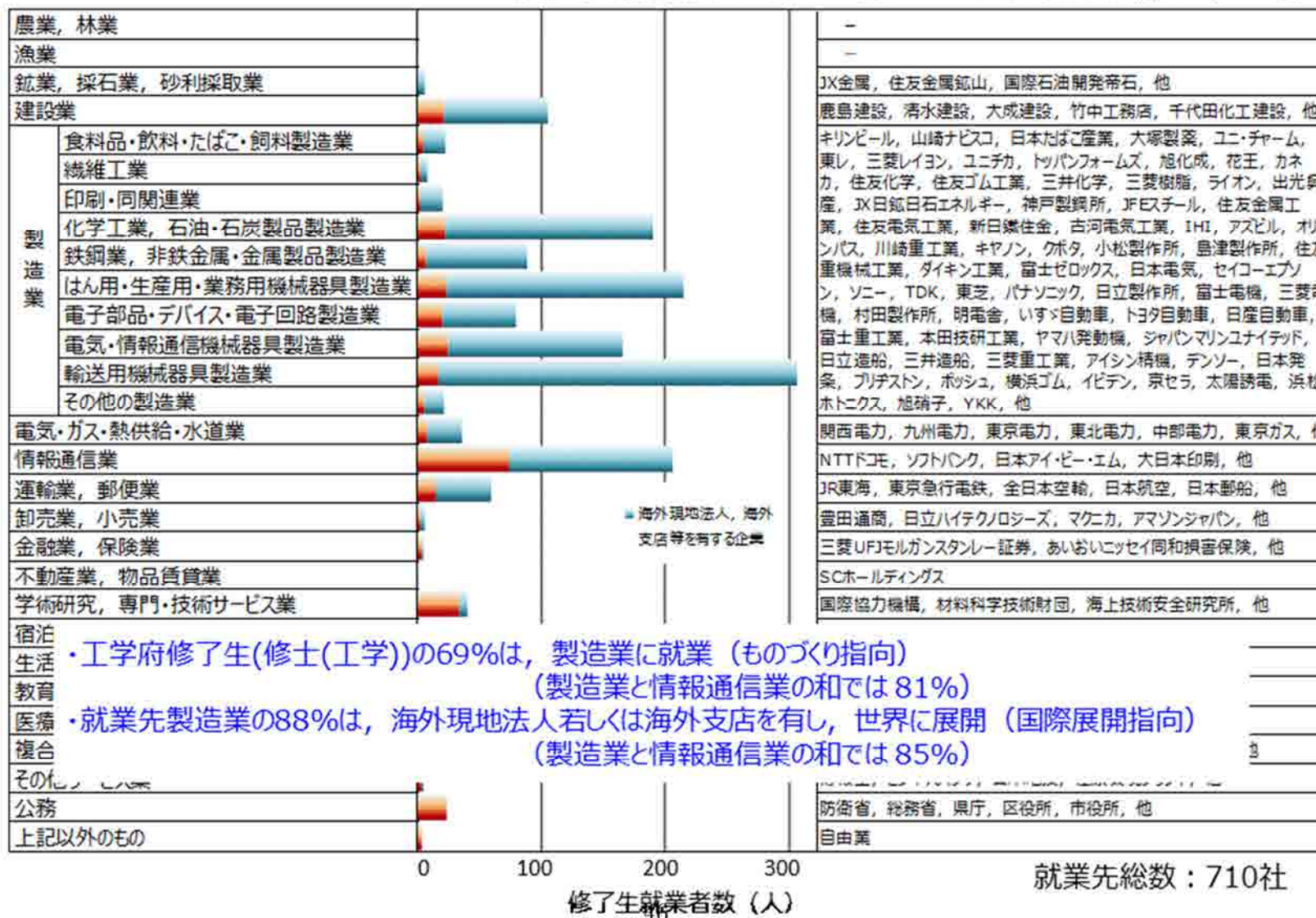
資料目次

- 資料 1-1 就業実績：博士課程前期（拡大版）
- 資料 1-2 就業実績：博士課程後期（拡大版）
- 資料 2-1 Web アンケート前書画面
- 資料 2-2 Web アンケート Q1 画面
- 資料 2-3 Web アンケート Q2 画面
- 資料 2-4 Web アンケート Q3 画面
- 資料 2-5 Web アンケート Q4 画面
- 資料 2-6 Web アンケート最終画面
- 資料 3-1 修了生を評価・マネジメントする立場の方々に送付した教育課程改編計画の趣旨を記した趣意書
- 資料 3-2 賛同書をお送りいただいた方々の所属・部署・役職リスト
- 資料 4-1 有識者インタビューでの説明資料
- 資料 4-2 有識者インタビューにおける質問例
- 資料 4-3 有識者インタビュー回答記録
- 資料 5 「表 10 工学府各専攻の就業実績のある主要上位約 50 社から見た理工学府の求人数の推移」の拡大版

就業実績：博士課程前期

資料 1-1

修了時回答総数（平成23年度～27年度修了者の累計）1,632名

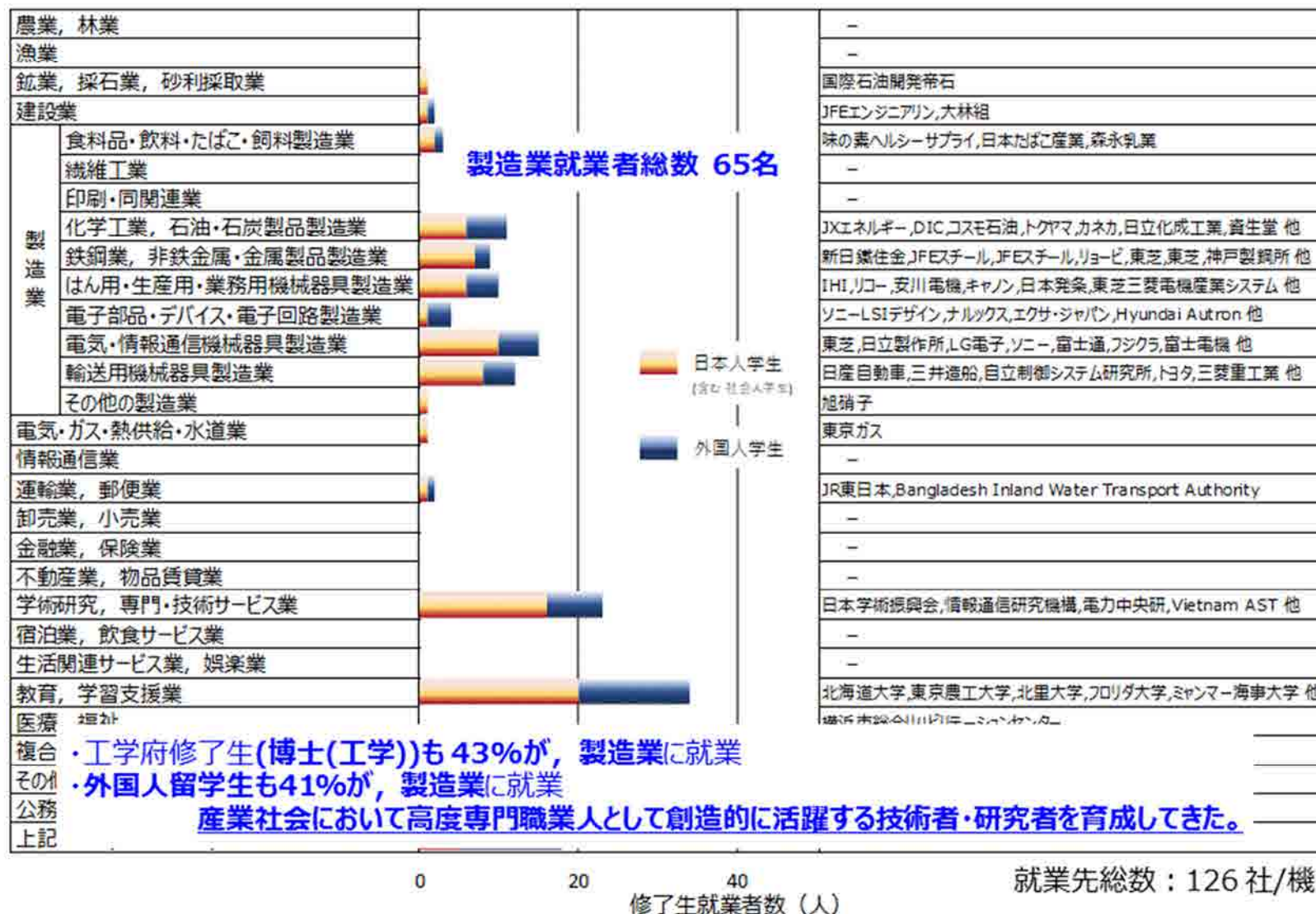


・工学府修了生(修士(工学))の69%は、製造業に就業（ものづくり指向）
 （製造業と情報通信業の和では81%）
 ・就業先製造業の88%は、海外現地法人若しくは海外支店を有し、世界に展開（国際展開指向）
 （製造業と情報通信業の和では85%）

就業実績：博士課程後期

資料 1-2

修了時回答総数（平成23年度～27年度累計）151名



資料 2-1

平成 28 年度に求人票をお送りいただいたところから、それまでに就業実績のあった 224 社の人事担当部署または人事担当者宛に、横浜国立大学情報基盤センターの提供する Web アンケートシステム（Limesurvey : <https://qstsrv.ynu.ac.jp/limesurvey/index.php>）を利用して、理工学府教育課程の基本方針について、Web アンケートを実施した。資料 2-1 から 2-6 は、そのアンケートの各画面である（pdf 印刷の際、文字列配置が崩れた箇所がある。また、アンケート公開前の画面のため、最下行赤文字での「このアンケートはまだ実行されていないので、回答を保存できません。」が残っているが、公開後の画面を pdf 印刷保存するためには、最後まで回答を入力する必要がある、その結果、本来の回答者以外の無用な回答を保存し、自動集計してしまうこととなるため、公開前の画面を保存した。）

横浜国立大学大学院工学府から、修了生の採用を検討いただいている方々に向けたアンケート

横浜国立大学大学院工学府から、修了生の採用を検討いただいている方々に向けたアンケート

横浜国立大学の理工系大学院である工学府では、平成30年(2018年)4月から、教育内容の改革を計画しております。
この新しい大学院教育で検討しているいくつかの事柄について、お考えをお答えいただければ、幸いに存じます。

このアンケートは全部で 4 問あります。

前回終わらなかったアンケートのデータを読み込む

次へ >>

アンケートを消去して終了

このアンケートはまだ実行されていないので、回答を保存できません。

横浜国立大学大学院工学府から、修了生の採用を検討いただいている方々に向けたアンケート

横浜国立大学大学院工学府から、修了生の採用を検討いただいている方々に向けたアンケート

横浜国立大学の理工系大学院である工学府では、平成30年(2018年)4月から、教育内容の改革を計画しております。
この新しい大学院教育で検討しているいくつかの事柄について、お考えをお答えいただければ、幸いに存じます。

0% 100%

Q1

* 平成23年(2011年)に学部を理工学部とし、学士(理学)と学士(工学)が卒業する教育プログラムを用意いたしました。
この理工学部の卒業生が中心となる大学院進学者について、理学を学ぶ学生には、奥深い理学の学問を追求するとともに工学的な応用のセンスを備えさせ、また工学を学ぶ学生には、最先端の工学を追求するとともに基礎科学のセンスを備えさせたいと考えており、そのための大学院教育プログラムを提案する予定です。
こうした「理学と工学のセンスを兼ね備えた」人材は、社会にとって有意義な人材であるとお考えでしょうか？

以下から一つだけ選んでください。

- ①有意義である
- ②どちらかと言えば有意義である
- ③どちらかと言えば有意義ではない
- ④有意義ではない

後で再開

<< 前へ

次へ >>

アンケートを消去して終了

このアンケートはまだ実行されていないので、回答を保存できません。

横浜国立大学大学院工学府から、修了生の採用を検討いただいている方々に向けたアンケート

横浜国立大学大学院工学府から、修了生の採用を検討いただいている方々に向けたアンケート

横浜国立大学の理工系大学院である工学府では、平成30年(2018年)4月から、教育内容の改革を計画しております。
この新しい大学院教育で検討しているいくつかの事柄^すについて、お考えをお答えいただければ、幸いに存じます。

0% 100%

Q2

* 新工学府に、横浜発の理学系教育プログラム(**Professional Science Degree (PSD)**)プログラムを提案する予定です。

米国**NPSMA**に**International Member**として参加し、教育プログラムの国際的レベルを担保すると共にインターンシップをはじめ米国等の大学と相互的な交流を促す計画です。このことは「理学と工学のセンスを兼ね備えた」人材育成に有効でしょうか？

(**NPSMA: National Professional Science Master's Association, The Professional Science Master`s (PSM)**):主に米国の大学で実施されている科学分野の学位プログラムで、数学、物理、化学などの理学(科学)の分野を学ぶ学生にワークショップやインターンシップを通して企業における様々なスキルをトレーニングするという新しい学位です(英国、オーストラリア、韓国でも一部実施しています)。

以下から一つだけ選んでください。

- ①有効である
- ②どちらかと言えば有効である
- ③どちらかと言えば有効ではない
- ④有効ではない

後で再開

<< 前へ

次へ >>

アンケートを消去して終了

このアンケートはまだ実行されていないので、回答を保存できません。

横浜国立大学大学院工学府から、修了生の採用を検討いただいている方々に向けたアンケート

横浜国立大学大学院工学府から、修了生の採用を検討いただいている方々に向けたアンケート

横浜国立大学の理工系大学院である工学府では、平成30年(2018年)4月から、教育内容の改革を計画しております。
この新しい大学院教育で検討しているいくつかの事柄について、お考えをお答えいただければ、幸いに存じます。

0% 100%

Q3

* 本学では、(Q1)で示した「理学と工学のセンスを兼ね備えた」人材育成のための教育において、本学の理工系の伝統的な強みである「ものづくり」教育に加え、高度化したIoT社会において埋没せぬよう、数理・情報教育を充実し、現代及び未来の産業社会において活躍できる技術者・研究者を育成したいと考えております。このような教育は、社会にとって有意義であるとお考えでしょうか？

以下から一つだけ選んでください。

- ①有意義である
- ②どちらかと言えば有意義である
- ③どちらかと言えば有意義ではない
- ④有意義ではない

後で再開

<< 前へ

次へ >>

アンケートを消去して終了

このアンケートはまだ実行されていないので、回答を保存できません。

横浜国立大学大学院工学府から、修了生の採用を検討いただいている方々に向けたアンケート

横浜国立大学大学院工学府から、修了生の採用を検討いただいている方々に向けたアンケート

横浜国立大学の理工系大学院である工学府では、平成30年(2018年)4月から、教育内容の改革を計画しております。
この新しい大学院教育で検討しているいくつかの事柄について、お考えをお答えいただければ、幸いに存じます。

0% 100%

Q4

* 近年、本学理工学部から大学院への進学率が**8割**を越え、分野によっては**9割**を越えております。そこで大学入学時から大学院までの教育を一貫した体系として再構築し、学生にそのカリキュラム体系を示して**6年間**での学習計画を立ててもらうことを検討しています。このような学部・大学院一貫的教育を実施することは、社会への貢献として有効であるとお考えになりますでしょうか？

以下から一つだけ選んでください。

- ①有効である
- ②どちらかと言えば有効である
- ③どちらかと言えば有効ではない
- ④有効ではない

後で再開

<< 前へ

投稿する

アンケートを消去して終了

このアンケートはまだ実行されていないので、回答を保存できません。

横浜国立大学大学院工学府から、修了生の採用を検討いただいている方々に向けたアンケート

以上でアンケートは終了しました。ご協力、誠にありがとうございました。
アンケートの結果内容を記録しませんでした。

このアンケートはまだ実行されていないので、回答を保存できません。

送付した教育課程改編計画の趣旨を記した趣意書

横浜国立大学 大学院工学府 教育課程改編計画の趣旨

理学および工学は人類社会の福祉と持続的発展に直接的に寄与する使命を持つ学術分野であり、社会からの様々な要請を的確に把握し、地球規模の環境問題などに対処しつつ新たな産業と学術を開拓して輝ける未来を切り拓くために、技術者・研究者は大きな役割を果たす必要があります。

我が国における製造業の国際的卓越性は、従来から生産現場における生産性の質と量の優位性に大きく依拠してきましたが、これら従来型の産業構造に、特にイノベーションによる産業力の更なる強化・発展が強く求められています。近年、産業振興が著しい情報通信技術、バイオテクノロジー、ナノテクノロジー、グリーンテクノロジーなどの先端技術に関わる分野では、これまで産業の発展を支えてきた工学に加えて、理学に立脚し、理学を包含した新たな理工学の技術的取り組みが必須になりつつあります。本学が位置する横浜・神奈川には、最先端の公的研究所や民間企業等が数多く存在し、各産業分野からイノベーションの創出を担う人材育成への強い期待が本学に寄せられています。平成23年度に、学術の基礎としての理学から、産業を支える工学までの幅広い学士教育プログラムを開設して、これらイノベーションを創出する「未来の創造的人材」（工学的センスを持った理学系人材、理学的センスを持った工学系人材）を育成することを目的として、本学に理工学部を設置しました。理工学部においては、学士（工学）の学位のほかに、数理科学、物理工学、化学の教育プログラムにおいて学士（理学）の学位も取得できるよう体制を整えました。また、近年の急速な理工系分野の拡大を考慮して、これからの産業・社会に必要となる航空宇宙、エネルギー化学、サイバーフィジカルシステム分野の体系的な教育プログラムを平成29年度から新たに設けることにより、次代が必要とするイノベーションに貢献できる人材の育成に着手しました。これらの平成23年度改組以来の取り組みは一貫して「理学のセンスを持つ工学系技術者・研究者」と「工学のセンスを持つ理学系技術者・研究者」の育成を意図しております。

そして今般、大学院教育水準において「理学のセンスを持つ工学系技術者・研究者」と「工学のセンスを持つ理学系技術者・研究者」の育成を目指し、「理工学府」開設を計画しております。その理工学府には、機械・材料・海洋系工学専攻（仮称）、化学・生命系理工学専攻（仮称）、数物・電子情報系理工学専攻（仮称）を設置し、従来の工学の学位に加えて理学の学位をも授与できる教育組織への改編を目指し、ものづくりの根幹的科学技术の継承・発展とともに、**Industry 4.0** ならびに**Society 5.0**などから予見されますこれからのものづくりにおいても中心的、先導的に貢献できる人材の育成を目途としております。

そのため、カリキュラムに、専攻の専門科目群の他に、情報系科目群、理学系科目群、工学系科目群、実務系（プロフェッション）科目群を配し、それらを科目ナンバリングにより体系化することで、学部教育から連続する学修の設計性と学問の修得性を向上させる計画です。情報系、理学系、工学系、実務系科目で構成されるカリキュラムのもとで、学生自らがそれぞれの専門性を高め、自らを磨くだけでなく、共通の基盤的学術として強化した数理科学と情報科学を修得できるように計画しています。こうした教育課程を通し、新しいアイデアを世界に発信できる、国際的に通用する知識と能力を身につけ、現代及び未来の産業社会において高度専門職業人として創造的に活躍できる技術者・研究者を、基盤的学術に関する幅広い教育と先端的科学技術の研究活動を通して育成し、修士（工学）、修士（理学）、博士（工学）、博士（理学）の学位を取得した修了生を、次代の成長の新たな担い手として、さらに今よりも多く社会に送り出す所存です。

また、計画する教育課程のもとで学び直しを望み、また学位取得を目指す社会人のために、博士課程前期と博士課程後期を同時に開設することも計画しております

以上、本学の理工系大学院の教育研究体制を充実発展させるために、歴史と実績を有する横浜国立大学大学院工学府を、新時代を担う理工系人材育成の中核となるよう、さらに強化・増強し、理工学府として平成30年4月に開設することに、ご賛同またご支援をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

平成29年1月

横浜国立大学 大学院工学研究院・工学府
研究院長・学府長 福富 洋志

参考

【横浜国立大学大学院工学府沿革】

横浜国立大学理工学部・工学府の母体の一つである横浜高等工業学校は、工業に従事すべき者に高等の学術技芸を教授することを目的として大正9年に設置されました。横浜高等工業学校は、新制国立大学の発足時に横浜国立大学工学部として承継され、昭和38年、専門の学術を研究し精深なる学識と研究能力をもった人材の育成により学術文化の発展に貢献することを目的とし、大学院工学研究科修士課程が設置されました。

昭和60年には、社会人技術者及び海外からの留学生を積極的に受け入れて、通常の課程の学生と三者交流による相互啓発効果を醸しだし、さらに本学独自の教育理念を具体化することによって、新たな科学技術の発展と新たな人材の輩出を目指して、大学院工学研究科修士課程は博士課程前期・後期へと発展いたしました。

さらに平成13年には、新制大学の工学部として初めて大学院を教育研究における根幹たる部局とする、いわゆる大学院部局化が認められ、工学府および工学研究院が設置されました。平成19年度には、従来型の特定の分野を専門的に学んだ高度専門技術者・研究者を育成するためのTED（T型工学教育：T-type Engineering Degree）プログラムのほかに、多様化・高度化した産業社会の現代的課題に対応できる実務家型技術者・研究者を育成するためのPED（Pi型工学教育：Pi-type Engineering Degree）プログラムを導入し、PEDプログラムはわが国初の新しい教育方法として産業界から高い評価を得て、第17回工学教育賞を受賞いたしました。

また平成23年には、学術の基盤としての理学から、産業を支える工学までの広い基盤的学術分野を体系的に学修した上に専門能力を高めた学部水準での人材を養成することを目的に、工学部を理工学部改編し、理学教育の充実を進めております。

資料 3-2

所属	(部署名)	役職
JFEエンジニアリング株式会社	アクアソリューション本部 国内事業部	事業部長 営業部長
	アクアソリューション本部 国内事業部	(役職名 記載なし)
	営業部 バイオマス営業室	(役職名 記載なし)
Mywayプラス株式会社	モータ評価管理開発部	(役職名 記載なし)
旭硝子株式会社	(部署名 記載なし)	主席
アズビル株式会社	パルプ商品開発部 開発1グループ	課長
石川島（上海）管理有限公司	上海過給機技術センター	部長
一般財団法人日本自動車研究所	FC・EV研究部	研究員
一般財団法人日本造船技術センター	試験センター技術部 技術課	課長代理
花王株式会社	基盤研究セクター 安全性科学研究部	研究室長
		主任研究員
		主任研究員
		研究員
		研究員
株式会社ADEKA	研究開発本部 研究企画部 未来探索チーム	主任研究員
株式会社IHI	原子力セクター 横浜工場 生産技術部	部長 主査
	エネルギー・プラントセクター 建設部	部長 次長 (役職名 記載なし)
	車両過給セクター 設計部	課長 (役職名 記載なし)
	車両過給機セクター 設計部	(役職名 記載なし) (役職名 記載なし)
		(役職名 記載なし)
		(役職名 記載なし)
株式会社アドバンスシステムズ ジャパン	代表取締役	
株式会社アルネラボラトリ	技術部	主任研究員
株式会社アルバック	技術開発部解析・分析センター	部長
株式会社カネカ		幹部職 (詳細 記載なし)
		幹部職 (詳細 記載なし)
		幹部職 (詳細 記載なし)
		幹部職 (詳細 記載なし)
		幹部職 (詳細 記載なし)
		幹部職 (詳細 記載なし)
	生産技術部	常務執行役員
株式会社ケーサイエンス	代表取締役社長	
株式会社神戸製鋼所	真岡製造所 アルミ板研究部	主任研究員
株式会社資生堂	品質評価センター 安全性研究開発部	室長 (役職名 記載なし)
株式会社篠塚製作所	(部署名 記載なし)	主席研究員
株式会社東芝	研究開発センター	(役職名 記載なし)
	ソリューション開発センター	グループ長
	エンベデットソフトウェア技術開発	
	生産技術センター 実装技術研究部	主任研究員
	浜川崎工場	工場長
	浜川崎工場 開閉装置部	参事
	浜川崎工場	参事
	(部署名 記載なし)	(役職名 記載なし)
	(部署名 記載なし)	(役職名 記載なし)
	(部署名 記載なし)	(役職名 記載なし)
(部署名 記載なし)	(役職名 記載なし)	

株式会社東芝 エネルギーシステムソリューション 社	電力・社会システム技術開発センター	センター長
	原子力海外技術部	担当部長
	原子力福島復旧・サイクル技術部 プロジェクト第三担当	(役職名 記載なし)
	原子力海外技術部 海外プロジェクト第四担当	グループ長
		主務
株式会社トクヤマ	TSグループ	グループリーダー
株式会社日立製作所	材料イノベーションセンタ	センタ長
	研究開発グループ エネルギーマネジメント研究部	部長
		研究員
株式会社ブリヂストン	横浜工場 品質保証課	(役職名 記載なし)
株式会社明治	技術開発研究所	所長
株式会社明電舎	ICT製品・サービス統括本部 開発部	課長
	データ解析課	主任
川口技術士事務所		所長
川崎重工業株式会社	技術研究所 機械システム研究部	(役職名 記載なし)
	ガスタービン・機械カンパニー ガスタービンビジネスセンター 駆動システム技術部	部長
		課長
		(役職名 記載なし)
キャノン株式会社	ICB統括開発推進室	(役職名 記載なし)
京浜ラムテック株式会社	代表取締役社長	
	新規事業開発室	室長
高圧ガス保安協会	高圧ガス部	高圧ガス部長代理 兼 高圧ガス課長 高圧ガス課長代理
公益財団法人 塩事業センター	海水総合研究所	所長
		主任研究員
国立印刷局研究所	基盤技術研究部	部長
国立研究開発法人 宇宙航空開発機構	角田宇宙センター	所長
	研究開発部門	研究領域主幹
		主任研究開発員
		主任研究開発員
研究開発部門第四研究ユニット	主任研究開発員	
サニタリーエンジニアリング	(部署名 記載なし)	コンサルタント
ジャパンマリンユナイテッド株式会社	技術研究所	流体研究グループ長
	技術研究所 流体研究グループ	(役職名 記載なし)
新日鉄住金株式会社	技術開発本部 鉄鋼研究所 接合研究部	主幹研究員
新明和工業株式会社		専門役員
スタッフ株式会社	技術本部	本部長執行役員
	(部署名 記載なし)	(役職名 記載なし)
住友重機械マリンエンジニアリング株式	営業開発本部 性能グループ	グループリーダー
	(部署名 記載なし)	主任技師

	(部署名 記載なし)	(役職名 記載なし)
綜研化学株式会社		技術顧問
ソニー株式会社	(部署名 記載なし)	(役職名 記載なし)
ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社	モジュール事業部 ビジネス1部	(役職名 記載なし)
大成建設株式会社	常務執行役員 エンジニアリング本部長	
太陽ホールディングス株式会社	(部署名 記載なし)	フェロー
太陽誘電株式会社	回路商品事業部 商品開発部	(役職名 記載なし)
田中貴金属工業株式会社	理事	
ダッソー・システムズ・バイオピア株式会社	(部署名 記載なし)	Principal Scientist
	(部署名 記載なし)	アプリケーションサイエンティスト
デンカ株式会社	先端技術研究所	所長
東芝三菱電機産業システム株式会社	(部署名 記載なし)	主任
東レ株式会社	複合材料研究所	研究員
トヨタ自動車株式会社	FC技術・開発部	主幹
日産自動車株式会社	総合研究所 EVシステム研究所	(役職名 記載なし)
	先進技術開発センター	(役職名 記載なし)
日本精工株式会社	コア技術研究開発センター	(役職名 記載なし)
日本電気株式会社	(部署名 記載なし)	主任
パーカー熱処理工業株式会社	取締役 技術本部長	
	(部署名 記載なし)	課長
パナソニック株式会社	先端研究本部	総括
	水素・エネルギープロジェクト室	
	ライティング事業部 インキュベーション	部長
東日本旅客鉄道株式会社	JR東日本研究開発センター	課長 (GL)
日立オートモティブシステムズ株式会社	グローバルモノづくり統括本部	部長
	生産技術開発本部 技術統括部	(役職名 記載なし)
ファイザー株式会社	クリニカルリサーチ統括部	オンコロジー領域部長
古河電気工業株式会社	先端技術研究所 解析技術センター	センター長
ポーラ化成工業株式会社	肌科学研究部	研究員
三井化学株式会社	研究開発本部 機能材料研究所	主席研究員
三菱ガス化学株式会社	新規事業開発部 新規事業センター	主査
三菱重工 エンジン&ターボチャージャ株式会社	エンジン・エナジー事業部技術部 高速エンジンチーム	(役職名 記載なし)
三菱重工業株式会社	エンジニアリング本部 プロジェクト総括部 プロジェクト	主幹プロジェクト統括
	エンジニアリング本部 プロジェクト総括部 プロジェクト	(役職名 記載なし)
	エンジニアリング本部 プロジェクト総括部 建設部 工場計画グループ	グループ長
	エンジニアリング本部 プロジェクト総括部 建設部	主任
	エンジニアリング本部 プロジェクト総括部 機械・機器エンジニアリング部 化学プラント機械設計グループ	(役職名 記載なし)
	エンジニアリング本部 プロジェクト総括部 機械・機器エンジニアリング部 化学プラント製缶機械設計グループ	(役職名 記載なし)
	エンジニアリング本部 プロジェクト総括部 機械・機器エンジニアリング部 化学プラント製缶機械設計グループ	(役職名 記載なし)
	エンジニアリング本部 プロジェクト総括部 機械・機器エンジニアリング部 化学プラント製缶機械設計グループ	(役職名 記載なし)

	エンジニアリング本部	主席プロジェクト統括 (役職名 記載なし)
	E本部調運部	グループ長
三菱重工工作機械株式会社	(部署名 記載なし)	主席技師
森永乳業株式会社	装置開発センター	センター長
矢崎部品株式会社	技術開発室 材料開発センター 第二材料開発部	部長
横浜市立大学	(部署名 記載なし)	特任講師
横浜市立大学附属病院	医療情報部	部長
リョービ株式会社	ダイカスト本部	広島工場長 広島工場工務課長 兼 鋳造技術課長